

# 第6回 江山地区義務教育学校設立準備委員会

平成31年3月18日(月) 19:00

鳥取市立美和小学校 2階 多目的ホール

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 報告事項

### (1) 3部会の検討状況について

- ・すごい！学校創造部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- ・教育環境整備部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2
- ・江山の宝応援部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3

## 4 議 事

- (1) 校名案の最終選考の方法について・・・・・・・・・・資料4
- (2) 校名案の最終選考・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5
- (3) 義務教育学校教育ビジョンについて・・・・・・・・・・資料6
- (4) 広報紙の発行について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料7
- (5) 制服検討組織について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料8
- (6) その他

## 5 その他

## 6 閉 会

## 江山地区義務教育学校設立準備委員会委員名簿

	区 分	役 職 等	氏 名	部 会	備 考
1	地域代表	神戸地区区長会推薦	栗本 保夫	すごい！学校創造部会	委員長
2	地域代表	美穂地区区長会推薦	松本 広幸	教育環境整備部会	
3	地域代表	大和地区区長会推薦	中村 徹	江山の宝応援部会	
4	保護者代表	美和保育園保護者会会長	森田 匡隆	教育環境整備部会	
5	保護者代表	美和保育園保護者会	森下 将伍	江山の宝応援部会	
6	保護者代表	神戸小学校PTA会長	山本 賢璋	江山の宝応援部会	部会長
7	保護者代表	神戸小学校PTA副会長	坂本 訓子	すごい！学校創造部会	
8	保護者代表	神戸小学校PTA	牛尾 早知	教育環境整備部会	
9	保護者代表	美和小学校PTA会長	上田 光徳	教育環境整備部会	副委員長、部会長
10	保護者代表	美和小学校PTA副会長	有田 京子	すごい！学校創造部会	
11	保護者代表	美和小学校PTA	前田 真琴	江山の宝応援部会	
12	保護者代表	江山中学校PTA会長	谷口 範仁	すごい！学校創造部会	
13	保護者代表	江山中学校PTA副会長	石尾 万紀子	江山の宝応援部会	
14	保護者代表	江山中学校PTA	山本 敏夫	教育環境整備部会	
15	保育園代表	美和保育園園長	塩見 雅代	すごい！学校創造部会	
16	保育園代表	美和保育園副園長	太田 信子	江山の宝応援部会	
17	学校代表	神戸小学校校長	高木 雅子	すごい！学校創造部会	部会長
18	学校代表	神戸小学校教頭	山根 啓嗣	江山の宝応援部会	副部会長
19	学校代表	神戸小学校教務主任	小谷 直和	教育環境整備部会	
20	学校代表	美和小学校校長	安田 政彦	教育環境整備部会	副部会長
21	学校代表	美和小学校教頭	武林 真理	教育環境整備部会	
22	学校代表	美和小学校教務主任	田村 薫	すごい！学校創造部会	
23	学校代表	江山中学校校長	山本 博美	江山の宝応援部会	副委員長
24	学校代表	江山中学校教頭	長谷川 理恵	すごい！学校創造部会	副部会長
25	学校代表	江山中学校教務主任	安木 良	すごい！学校創造部会	

(事務局) 市教委事務局次長兼教育総務課校区審議室長 中村 隆弘

市教委事務局学校教育課参事 田中 浩史

市教委事務局教育総務課校区審議室主査 石上 直彦

市教委事務局学校教育課主幹 福田 美奈

市教委事務局教育総務課校区審議室主任 大坪 宗臣

**第 5 回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（すごい学校創造部会）概要について**

1 日 時 平成 31 年 2 月 6 日（水） 19 時 ～ 20 時 30 分

2 会 場 神戸小学校 図書室

3 出席者 【委員】  
すごい学校創造部会員 8 名  
【教育委員会事務局（教育総務課）】  
職員 2 名

**4 報 告**

2 校の義務教育学校（津市立みさとの丘学園、亀岡市立亀岡川東学園）を視察し、参加した部会員から報告を受けた。

みさとの丘学園では、小さい集団から大きい集団に入るときに子どもが目立ちたいということがあったり、子どもにとって決まりが変わったりということがあり、生徒指導上工夫をされて乗り越えられたようである。また、子どもも保護者も開校前は不安な声も聞かれたが、いざ開校をすると集団の良さについて理解いただいたようである。

**5 議 事****(1) 義務教育学校教育ビジョンについて**

○江山中学校区義務教育学校教育ビジョン（案）をもとに協議を行い、原案どおりのビジョンを策定することを確認した。3 月の小中連携委員会でも同様に協議を行い、それを踏まえて、準備委員会に諮る。

**【委員意見】**

- ・「主体的・持続的な学び」というのは、答えのない問題に取り組む探求心をもたせ、それに対応する力、スキルを身に付けていくもの。
- ・キャリア教育とは、小学校と中学校とでは捉えが異なるが、小学校では、身の回りの仕事や環境への関心を持たせること、夢や希望を持たせることを目的としている。中学校では、自己を理解し、興味や関心に基づく勤労観や職業観を形成したり、生き方や進路について現実的に考えたりすることを目的としている。
- ・「国際社会に通用する人づくり」というのは、単に外国で働けるということだけでなく、国内にいても国際社会に対応していくためのスキルや対応力を身に付けさせていくということ。

**第 5 回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（教育環境整備部会）概要について**

- 1 日 時 平成 3 1 年 3 月 1 2 日（火） 1 9 時 ～ 2 1 時
- 2 会 場 江山人権福祉センター
- 3 出席者 【委員】教育環境整備部会員 8 名、江山の宝応援部会員 1 名  
【教育委員会事務局（教育総務課）】職員 2 名

**4 報 告**

1 月～2 月に 2 校の義務教育学校（津市立みさとの丘学園、亀岡市立亀岡川東学園）を視察し、参加した部会員から報告を受けた。特に、亀岡市立亀岡川東学園の絆空間のように全校児童生徒が集え、地域の方も集え、図書館機能も兼ねたような空間があった方がいいという意見があった。

**5 議 事****(1) 校名案の選考について**

応募のあった 2 4 0 件の中から、あらかじめ部会員が 5 点を選んで持ち寄り、その集計結果をもとに協議を行い、校名案として 9 点に絞った。→（議事資料参照）

**【委員意見】**

- ・誰もが正しく読みやすい校名がいいのではないか。
- ・それぞれの地域の名前を残した方がいいのではないか。
- ・市内の他の学校との区別がつきやすい校名がいいのではないか。

**(2) 校名案の最終選考の方法について**

校名案の最終選考の方法について案をもとに協議し、別添のとおり準備委員会に諮ることとした。→（議事資料参照）

**(3) その他**

開校に向けて、次のような意見があった。

**【委員意見】**

- ・まだまだ地域に義務教育学校開校について浸透していないように感じる。平成 3 2 年 4 月に開校というのは、準備が足りないと思う。実際に、みさとの丘学園のように開校を 1 年遅らせた例もある。施設整備についても、児童クラブの課題等があるので、場合によっては一度決定した計画を変えていけない。
- ・美穂地区の区長会から、経過報告をしてほしいという要望がある。
- ・地域の多くの方に周知することは大事なことだが、あらゆる組織や団体ごとに説明していくのはなかなか難しいと思う。年末に、地区単位で報告会を実施したが、今後、準備委員会で何らかの方針なりが決定した段階の度に、報告会の持ち方を検討してどうか。

- ・一番大事なものは、将来の子どもたちのことを考えていくこと。これから何十年先のことも考えて子どもたちが学べる環境を作りあげていかないといけない。
- ・平成32年4月に開校というのは、延ばせないと思う。ただし、施設については、十分検討して、例え仮設校舎で学習する期間が長くなっても、良いものを作っていく必要がある。
- ・神戸小の児童数が少ないということは切実であるので、いち早くこうした課題を解消してほしいと考えているので、平成32年には開校してほしい。今の校舎を使う分離型で開校し、施設が整ってから一体型にした方がいいではないかという声も聞いている。また、平成32年4月の開校までも児童の交流の機会を増やすなど工夫してほしい。

#### <事務局説明>

- ・神戸小学校の小規模化が顕著である現状から、一刻も早く課題に対応する必要があるという議論が教育委員会でなされ、できるだけすみやかに義務教育学校を設置すべきということで、平成32年4月開校が昨年6月に決定したところである。
- ・また、小学校と中学校を一体型の校舎とすることについては、子どもの学習面において高い効果が期待できることはもとより、学校運営の面でも、より効率的に一貫教育を行うことができ、教職員の負担軽減にもつながるということを考慮された。
- ・施設整備については、できるだけ教室数や広さを充実させたいという考えは、おそらく誰もが望むところであると思う。ただ、市としての予算の作成段階や、議会から認めていただくにあたり、鳥取市全体の学校施設のバランスは考えていかなければならない。例えば、理科室を2つ設置したいというときに、同規模の他校では1つであった場合には、2つにするそれなりの根拠を示していく必要がある。そのようなことを踏まえ、江山地区の義務教育学校で具体的にこういった教育をしたい、力を入れたいので、こういった教室・施設が必要だという議論をお願いしたい。そうすれば、事務局としても、実現していくために根拠を持って予算要求にあたっていくことができる。

## 第5回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（江山の宝応援部会）概要について

1 日 時 平成31年2月12日（火） 19時 ～ 21時

2 会 場 大和地区公民館

3 出席者 【委員】江山の宝応援部会員6名  
【教育委員会事務局（教育総務課）】職員2名

## 4 報 告

1月～2月に2校の義務教育学校（津市立みさとの丘学園、亀岡市立亀岡川東学園）を視察し、参加した部会員から報告を受けた。

## 5 議 事

## (1) 広報紙の内容について

○「江山の明日」について、議事資料のとおりとして提案する。

## (2) 制服について

○部会長より、昨年末に3校のPTA会長及び保育園保護者会長で、制服検討組織づくりについて意見交換をし、設立準備委員会に属する保護者で組織してはどうかという意見で概ねまとまったことが報告された。このことを含め、制服検討組織のメンバーや進め方について、改めて部会でも検討し、次のとおり決定した。

→生徒指導等の観点からも教職員も関わった方が良いため、各学校・保育園の教職員（準備委員会委員に限らない）各1名入ることとし、準備委員会の3校の保護者代表各3名、保育園代表2名の合計15名で組織することとする。

制服検討の際には、各学校、保育園の執行部会等にも進捗を報告するとともに、意見を収集する機会を設けるよう努めることとする。

## 【次回準備委員会（3月18日）までのスケジュール】

2月中に、各校保育園の常任委員会等で組織体制について報告し協議するとともに、各校長・園長で制服検討の内容・基本的な方向性（制服を製作するかどうか、何年生から着用すべきか、何年度から移行するか）を協議する。

これらを受けて、次回準備委員会で制服検討組織について提案する。

## (3) 学校応援組織について

○事務局より、美和小の学校ボランティアの状況、鹿野学園の学校応援団の組織体制・取組について説明を受けた。また、部会員から、神戸小の学校ボランティアの状況について説明いただき、意見交換を行った。

→次年度、コミュニティ・スクールの導入について議論していく際に、どのように学校を支える組織づくりをしていけばよいか検討していくこととした。（学校運営協議会と学校応援団との関係、学校応援団のメンバーなど）

## (4) その他

○部会長より、神戸小閉校式を実施するための組織を立ち上げたことが報告された。佐治中の閉校記念式の様子も参考にしながら、準備を進められる予定。

## 最終選考方法(案)

## 【1回目の投票について】

第1次選考した9つの候補名から、全委員25名により委員1名につき、3つを選ぶ。  
その際、委員の考えを、結果により反映させるため、次のとおり傾斜配点を行うこととする。

## &lt;傾斜配点&gt;

第一候補…3点、第二候補…2点、第三候補…1点 とする

(投票用紙見本)

	第一候補(3点)	第二候補(2点)	第三候補(1点)
番 号			
学 校 名			

※投票は無記名で行う。

投票終了後、事務局が投票用紙を回収し、その場で集計し、順位及び得点結果を公表する。

## 【2回目の投票について】

1回目の投票結果の上位3つについて、2回目の投票を行い、順位を決定する。全委員25名により委員1名につき、1つを選ぶ。

ただし、下記(例)のような場合には、協議により、2回目の投票の対象として適宜加えることができるものとする。

(例) 1回目の投票結果で第3位と第4位以下の校名案の点数が拮抗している場合

1位 ○○(20点)

2位 △△(19点)

3位 □□(18点)←原則としてここまでを対象に2回目の投票を行う。

4位 ●●(17点)←ここを2回目の投票対象とするか協議を行う。

5位 ▲▲(15点)←ここを2回目の投票対象とするか協議を行う。

6位 ■■(7点)

⋮

⋮

(投票用紙見本)

学 校 名	
-------	--

※投票は無記名で行う。

## 【校名案候補の最終決定について】

2回目の投票終了後、事務局が投票用紙を回収し、その場で集計し、順位及び得票結果を公表し、この結果をもって江山地区義務教育学校設立準備委員会の最終決定とする。

ただし、1位の点数が過半数に満たない場合は、1位と2位の間で決選投票を行い、決定する。

## 【その他】

- ・第1次選考で漏れた校名案は復活させない。
- ・基本的には補作を認めない。

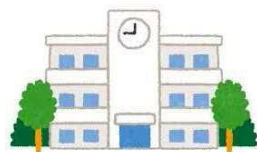
## 新学校名候補

No.	学校名	考案理由
1	こうざんかいせいがくえん 江山輝星学園	みんなが作った「輝く明日へ」の「輝」と、一人一人が星みたい に輝くように考えました。 (別紙38参照)
2	こうざんかがやきがくえん 江山輝学園	江山中校区が考えた「輝く明日へ」の「輝」をとって考えま した。 (別紙39参照)
3	こうざんがくえん 江山学園	美和と神戸を統合して作られた江山という学校名を残した い。(別紙40参照)
4	こうざんきぼうがくえん 江山希望学園	子どもたちはこれから育っていく大人の希望です。江山校 区の子どもたちが夢や希望をもって伸び伸びと健やかに 育ってほしいと思い、希望の文字を入れました。 (別紙43参照)
5	こうざん きぼうがくえん 江山輝穂学園	江山→美和・神戸・江山、輝→輝いているイメージ、穂→ 豊かで緑なイメージがあるから、この名前にしました。 (別紙44参照)
6	こうざんひしやうがくえん 江山飛翔学園	「江山美生英才」という言葉が江山中学校の校門に刻ま れています。山や川といった自然の美しい所には優れた 人材を輩出する力があるという意味です。創設される新し い義務教育学校の子どもたちも「江山」の美しい自然や温 かい地域の方たちに見守られ支えられながら世界に羽ば たく力をつけていってほしいと願います。 (別紙54参照)
7	こうざん び せいがくえん 江山美生学園	江山という名前の由来、「江山は美にして英才を生ず」か ら命名したものです。この言葉には、教育に対する地域の大き な期待と願いが込められている。その精神を残したい。 (別紙56参照)
8	せんだいがくえん 千代学園	理由は、3つの学校の校区に千代川が入っているからで す。 (別紙94参照)
9	せんだいにしがくえん 千代西学園	江山地区は千代の西のほうにあるから。 (別紙95参照)

## 【教育環境部会で出た意見】

- ・誰もが正しく読みやすい校名がいいのではないかな。
- ・それぞれの地域の名前を残した方がいいのではないかな。
- ・市内の他の学校との区別が付きやすい校名がいいのではないかな。





# 江山中学校区義務教育学校グランドデザイン（案）



**めざす学校像**  
学びを創造し、新たな時代に応える学校

志をもち、  
21世紀を生  
きぬく力

**めざす子ども像**  
・自ら学び、豊かに表現する子ども  
・思いやりの心を持ち、進んで人と関わる子ども  
・心も体も健やかに、たくましく生きる子ども

確かな学力  
と切磋琢磨  
する自立心

**学校教育目標**  
学びを自らの生き方につなげ、未来を切り拓こうとする児童生徒の育成

9年間を通したカリキュラムの編成

国際社会に通用する人づくり

ふるさと素材・人材を活かした地域づくり

- ◇主体的・持続的な学び方を身につけ、これからの社会に生きる**情報教育**の推進と学力の向上
- ◇キャリア教育を軸におき、さまざまな**体験活動・交流活動**を通した豊かな人間性・社会性の育成
- ◇豊かな人生を切り拓き、生涯を通じて**健康・安全で活力のある生活**の基盤となる心と体の育成

4・3・2ブロック  
制の導入

1・2・3・4年

5・6・7年

8・9年

江山中学校区コミュニティ・スクール

**めざす家庭像**  
基本的な生活習慣や規範意識を育み、子どもの心の居場所となる家庭

**めざす地域像**  
子どもたちを温かく見守り、その育ちを支える地域

**めざす教師像**  
・志を持ち、新しいことにも挑戦する教師  
・キャリアビジョンを描き、学び続ける教師  
・児童生徒、保護者、地域の願いや信頼に応える教師

# 江山中学校区小中一貫教育カリキュラムグランドデザイン

## 学校教育目標

学びを自らの生き方につなげ、未来を切り拓こうとする児童生徒の育成

### 前期

1年・2年・3年・4年

#### 学びの基礎固め

- ・学習規律の定着と基礎基本の習得
- ・自分や友だちを大切にし生活をよくする具体的な実践
- ・健康・安全に生活する態度と体を動かす基礎づくり

### 中期

5年・6年・7年

#### 学びの確立・活用

- ・抽象的・論理的思考へのスムーズな移行
- ・多様な考えを受け入れ集団や自己の課題を解決する力の育成
- ・健康・安全な生活に取り組む態度と運動習慣の確立

### 後期

8年・9年

#### 学びの探究・深化

- ・キャリア形成の向上につながる問題解決能力の獲得と協力・共同の実践
- ・自己の個性や能力を伸ばし社会に貢献しようとする態度の育成
- ・生涯にわたる心身の健康の保持増進と心豊かな生活態度の育成

学年段階に応じた教科担任制の導入と9年間を見通した連続性のあるカリキュラム編成

ICT教育と道徳教育の充実による次世代の社会を見据えた人づくり

グローバルな発想とローカルな素材を活かした豊かな体験活動・交流学习

一人一人が輝ける少人数を強みとした学習指導・自治力の育成

鳥取市教育振興基本計画(理念) **ふるさとを思い、志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代をひらく**

# 江山の明日



第 4 号

平成31年3月

## ～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

今年度も残り少なくなりました。1月末に三重県津市立みさとの丘学園を、2月始めに京都府亀岡市立亀岡川東学園を視察しました。すばらしい施設環境や取り組みで、大きな成果を出しています。先進校を参考にして、よりすばらしい学校となるように委員一同、意を新たにしました。

### 各部会の報告

#### 「すごい！学校創造部会」

ブロック制、3校の交流、小中一貫教育のビジョンについて協議しました。

☆ブロック制については、児童生徒の心身の成長実態と学習効果を考え、これまでの6・3制（小学校1～6年、中学校1～3年）よりも小学校1年～4年までの4年間、小学校5・6年と中学校1年生の3年間、中学校2・3年の2年間をブロックに分ける4・3・2制を採用することとしました。

☆3校交流については、行事交流だけでなく学習の交流を取り入れるなどして、来年度の交流や内容を検討し、統合を円滑にしていこうとします。

☆「めざす子ども像」に続き、「めざす家庭像」、「めざす地域像」について検討し、小中一貫教育ビジョン(案)を作成しました。次号以降に紹介します。

#### 「教育環境整備部会」

校名募集の要項や選定方法を協議しました。

☆江山地区にゆかりのある方を対象に、2月に校名を募集したところ、240通の応募がありました。準備委員会では、3月18日に校名案として選考した結果を、市長に報告します。その後、4月に市長より校名案が発表され、6月の市議会に新しい校名が提案される予定です。

☆校歌・校章については、校名決定後に選定方法等を協議していきます。

#### 「江山の宝応援部会」

通学方法と制服について協議しました。

☆バス通学区域として検討しているのは、神戸地区全域と赤子田地区、猪子地区です。横枕地区は、悪天候時に利用します。猪子・横枕線は今年の3月末で日ノ丸バスが廃止となりますが、大和地区で代替え運行を検討中とのことです。バスダイヤについては、生活時程にあわせたダイヤとなるよう日ノ丸バスに要望していきます。

自転車通学については、現時点では、単に学校までの距離だけでなく、部活動の場所や終了時間等を考慮して決めていくこととしました。また、集団登校についても検討していきます。

☆制服については、制服検討委員会を設けて決めていくことにしました。

準備委員会に地域住民の方から提言がありましたので、回答とともに紹介します。

#### 【提言】

☆地域住民が利用できる学校図書館の設置要望がありました。

＜回答＞教育環境整備部会で校舎の増改築に合わせて検討していきます。

☆隣接する住居跡の活用について、植栽を残して生活科や総合的な学習等で活用してはどうかという提言がありました。

＜回答＞隣接する住居跡は、基本的に駐車場として整備する予定としていますが、児童生徒の安全性を考慮して、土地の有効利用を検討していきます。

# 義務教育学校Q&A

前号では、義務教育学校や小中一貫教育のメリットを考えましたが、素晴らしいメリットがある一方でデメリットや課題もあります。今回は江山地区に新設される小規模な義務教育学校のデメリットと課題とその対策を考えてみたいと思います。

## 卒業まで人間関係が固定化される

児童生徒数が少なく、クラス替えができないため、入学から卒業まで学年の生徒の顔ぶれが基本的に変わりません。（これは現状でも同じですが。）そのため、人間関係が固定化しやすく、人間関係がこじれた際に立ち直るチャンス、リセットするチャンスが得られにくいことがあります。

そうしたことから、先進校では、ネガティブな方向に向かわないように、少人数を生かして児童生徒と教職員がじっくり向き合い心のケアをされているようです。

## 小学校卒業・中学校入学といった節目がない

9年間の教育ですので、通常行われる小学校の卒業式、中学校の入学式といった儀式がありません。そこで4・3・2制といったブロック制を活用し、次のブロックに移行するとき、ブロック修了式・ブロック進級式といった行事を行い、節目をつけているところが多くあります。

## 6年生時の自主性・リーダー性が培えない

小学校においては、6年生が学校の最上級生という自覚のもと自主性・リーダー性を培ってきましたが、その自覚が薄れるという懸念があります。そこで、ブロックごとの最上級生に、自主性や責任感、リーダー性を培う取り組みが行われています。また、異学年交流を取り入れることで、節目以外の学年においても取り組むことができます。

## 小1と中3の差が大きい

義務教育学校では小1から中3の児童生徒が同じ校舎で生活します。異学年交流や学年の縦割り活動などを行う場合、小1と中3では発達段階の差が大きく、同じ活動をするためには十分な配慮が必要となります。

施設や設備についても、体格差・学習内容の違いにより、理科室の学習台や手洗い場の高さ等への配慮が必要となります。これについては、安全で快適な学習環境・生活環境となるような施設・設備の整備を行っていきたいと考えています。

## まとめ

小中一貫教育を行う義務教育学校のメリットとして、いわゆる中1ギャップの解消、9年間の一貫した教育などが挙げられます。一方でデメリットとして、小学校高学年でリーダーシップが養われづらくなる、人間関係が固定化しやすいなどが挙げられます。

デメリットの解決策については先進校で様々な取り組みをされています。その事例を参考にするとともに日々の教育活動でそのデメリットを少なくしていく努力が必要です。デメリットの対応だけでなくメリットをより有効にするためには、学校だけでなく、学校・家庭・地域と行政との結びつきが必要です。地域の皆様のご理解とご支援・ご協力をお願いします。

## 制服検討組織について（案）

### 1 構成員

保護者 11名（江山地区義務教育学校設立準備委員会の保護者代表）

教職員 4名（神戸小1名、美和小1名、江山中1名、美和保1名）

### 2 進め方

制服検討の際には、各学校、保育園のPTA執行部会等にも進捗を報告するとともに、意見を収集する機会を設けるよう努めることとする。

### 3 制服検討組織の役割

- ・制服着用学年
- ・新制服にするかどうか
- ・デザイン（※新制服とした場合）

### 4 大まかなスケジュール(案)

4月初旬 組織設立に向けた各PTA会長と学校との事前協議

→上記のとおり、構成員・会の進め方・組織の役割や、

開校時の平成32年4月から制服着用すること等についても確認

4月 制服検討組織の立ち上げ

4～6月 制服着用学年（経過措置も含む）や新制服を作成するかどうかについて、アンケート実施も含めて検討し、決定

### ※新制服を作成することが決定した場合

4～6月 新制服作成の手順の検討

8月 業者選定、制服デザイン決定など

9月 新制服の決定

10月 保護者説明